

大学評価・学位授与機構 講演会

Learning outcomes, VSA and accreditation in the US

日 時：平成24年7月2日（月） 10:00～12:00

場 所：学術総合センター 11階 竹橋オフィス 1112 会議室

招聘講師：Dr. David Shulenburger 氏（州立大学協会（Association of Public and Land-grant Universities: APLU）シニア・フェロー）

<開催趣旨>

当機構では、平成24年7月2日（月）に米国の州立大学協会（APLU）シニアフェローの David Shulenburger 氏を招いて、「Learning outcomes, VSA and accreditation in the US (学習成果、VSA とアメリカのアクレディテーションについて)」と題した講演会を開催しました。

VSA(Voluntary System of Accountability)は、大学情報の公開を通じて、大学改革を促し、同時に社会に対して適切な情報の提供を目的とした、米国州立大学協議会（American Association of State Colleges and Universities: AASCU）と APLU による共同事業（イニシアティブ）で、共通化された大学情報のフォーマットであるカレッジ・ポートレートを用い、比較可能で理解しやすい大学情報を提供している機関です。

同氏は、APLU 学術担当副会長の立場で、College Learning Assessment(CLA)^{*1}や VSA の立ち上げに関与され、最近では WASC^{*2}においてカリフォルニア州立大学の評価委員会の委員長を務められるなど、大学運営と大学評価、大学間連携活動に関する豊富な経験をお持ちであり、これらの経験をもとに、学習成果の測定手法や、大学情報提供事業などの広範な話題についてその経験に基づく視点からの概観について講演いただきました。

***1 CLA** 大学で学んだ成果を標準的に測定し、大学間での比較を可能にするような測定ツールとして開発された標準試験。

***2 VSA** 大学情報の公開を通じて、大学改革を促し、同時に社会に対して適切な情報の提供を目的とした、米国州立大学協議会（American Association of State Colleges and Universities: AASCU）および APLU による共同事業（イニシアティブ）。共通化された大学情報のフォーマットであるカレッジ・ポートレートを用い、比較可能で理解しやすい大学関連情報を提供している。

<講演概要>

●米国で学習成果が必要とされる背景

米国では連邦政府が直接大学を指導・規制することはできないが、連邦政府は大学に学生への奨学金（全学生に対する奨学金の74%を政府から支給）として資金援助をしており、連邦政府の資金援助を受けるためには、大学は連邦政府が認める評価機関の適格認定を受けることが必要である。

米国にはこれまで全米で統一された単位時間の定義がなかったことや、最近ではステークホルダーから大学に対する懐疑的な意見（大卒に求められる実力が身につけていないまま大学を卒業する学生がいる）もあり、米国の高等教育界では、学習成果の必要性が議論されてきた。2006年の「スペリングス報告書^{*3}」で学生の学習成果の測定の必要性が提言された。スペリングス委員会は当初 CLA を学習成果の測定に利用しようとしたが、連邦政府の高等教育に対する関与が強まることに大

学側は危機感を抱き、大学協議会である APLU と AASCU は1つの測定方法で学生の学習成果を測ることに反対し、自ら測定方法を作成するという代替案 (VSA) を出した。

※3：高等教育の将来に関する連邦教育長官諮問委員会が 2006 年に発表した報告書『リーダーシップが試されるとき—米国高等教育の将来像を描く— (A Test of Leadership Charting the Future of U.S. Higher Education)』

●VSA (自主的アカウントビリティシステム) について

- VSA の目標：①一貫性があり、比較可能な透明性のある情報を高等教育関係者へ提供する
 ②学生や親に進学先 (大学入学) の選択に資する情報を与える
 ③学生の学習、成長に対する大学の説明責任を果たす
 ④教育成果の達成度アセスメントとして全米レベルの標準テストを提供する

VSA のステークホルダー：①学生と家族、②一般市民 (納税者)、③政策策定者・議員、④アクレディテーション機関、⑤大学の教職員

VSA は 2007 年に、College Portrait (①大学の基本情報、②学生の経験、③学生の学習成果、④在学状況、⑤卒業までかかる費用) の部分についてウェブサイトによる運用を開始した。

特に③の学習成果については、専門分野の知識ではなく、付加価値 (批判的思考力・分析能力、文書によるコミュニケーション能力) を測る試験を導入した。CAAP、CLA、MAPP の 3 種類の試験※4から大学に選択させ、試験的に測定を行った。(1 種類の試験では連邦政府の影響を受けやすくなるという大学側の反対が背景にある) 試験は 1 年生と 4 年生の点数比較ができ、大学が期待する能力を上回るか、下回るかを確認できる内容である。なお、CAAP、CLA、MAPP の結果に大きな差異がなかったことを VSA では確認している。

※4：標準テスト

	CAAP (College Assessment of Academic Proficiency)	MAPP (Measure of Academic Proficiency and Progress)	CLA (College Learning Assessment)
アセスメントの目的	大学生の能力向上の測定 一般的な教育課程の評価 機関レベルで実施	大学卒業時の付加価値の測定 機関レベルで実施	成長、変化、付加価値の測定 機関レベルで実施
測定能力	批判的思考力 数学 記述力 小論文 読解力 科学的推論	批判的思考力 数学 記述力 読解力	問題解決力 批判的思考力 記述力 分析的推論
解答形式	多肢選択式・記述式	多肢選択式、記述式	記述式
受験時間	各領域約 40 分	120 分 (または 40 分)	180 分 (または 90 分)
開始時期	1988 年	2006 年	2000 年

出典：星千枝,鈴木尚子『社会人に求められる能力の育成とアセスメント—イギリス・オーストラリア・アメリカの状況と日本への示唆—』BERD,No.16,2009年3月,pp.48-56

●VSA の今後

College Portrait に対する 2012 年に行った外部検証結果によると、College Portrait で一番閲覧数の多かったのは「卒業までかかる費用に関する情報項目」、一番閲覧数の少なかったのは「学生の学習成果に関する情報項目」であった。

学習成果の測定に対して大学から以下のような意見がある。

- ・付加価値の測定で学習成果を正しく測定できるかという疑義
- ・VSA による学習成果測定時の学生サンプル抽出の困難さ
- ・学習成果の測定結果を大学改革へ反映させることの困難さ
- ・レベルの高い学生が在籍する大学にとって、付加価値を測る VSA は不利であるため、参加しないエリート大学も多い。(レベルの低い学生の方が付加価値は伸びやすいという懸念)

VSA は今後、説明責任に重点を置いた学習成果の測定を大学が自らの改革に用いることができるよう改良を続ける。また、現行の 3 種類の標準テストに加え、ポートフォリオ評価に基づく Value Rubrics、大学院進学に必要な共通試験 GRE (Graduate Record Examination) を学習成果の測定試験として追加し、そのうち一つを大学が選べるようにする。学習成果測定結果の公表の仕方として現行の付加価値の試験結果の公表以外にベンチマーキング、設定した基準点の公表を大学が選択できるようにする。

●米国における学習成果の今後

連邦政府は学習成果の測定を全米の高等教育において実施することを望んでおり、今年 (2012 年) の秋には学習成果の測定に関する基準を各ア kredィテーション機関の評価基準に追加させる予定であるが、どのように評価するかの詳細は不明である。

全米の大学在学学生数の内で営利大学[※]に在学する学生数の割合は、約 10%を占めるが、卒業率は 22%と低く、(公立 55%、私立 65%) また、卒業後に巨額の負債を抱える率・失業率・低所得率が高いことが判明した。現在では、評価機関は学習成果を評価基準に含めていないので、営利大学も比較的容易に認定されている現実がある。

連邦政府は営利大学在学の学生に対し、全連邦政府奨学金の約 25%を給付しているので、営利大学に対し、教育プログラムと労働市場との関連性の説明を求めることになった。(Gainful Employment (十分な収入が得られる雇用：学生が卒業後にローンを返済できる収入を得られる仕事に就いているか))

※：アメリカの大学は以下に分けられる。

公立大学：州で設立した大学

私立大学：個人又は組織で設立した大学。利益は学校運営の基本金とする。

営利大学：個人又は組織で設立した大学。利益は株主等に配分する。

●米国における資格枠組み (U.S. “Degree Qualifications framework”) への取組み

米国における資格枠組みへの取組みについて、最近論じられてきているが、学位の質保証について講演者の見解では、ヨーロッパのボローニャプロセスのもとでの学位の質に関する統一的な基準としての資格枠組みの構築は、入学レベルが多様である米国では、受け入れられないのではないか、ということであった。

学習成果測定手法の一つとして、OECD による AHELO (Assessment of Higher Education Learning Outcomes) が進行中であり、学生や政策策定者及び雇用者にとって有益な取組みとして期待されている。

● 結び

競争や多様性により、世界から高い評価を受けている米国の大学にとって、学習成果の把握は重要視されていなかった。現在ではその重要性が高まってきており、その手法や基準の開発が進められている。

● 質疑応答

調査方法の詳細や学習成果と多様性の関係などについて質問がなされた。